

# ケニアからの手紙

Vol. 35 2026年1月12日 発行

発行人 日本ケニア交友会

## ◇2026年もどうぞよろしくお願ひいたします

おかげさまで2026年も無事に迎えることができました。

みなさまにとって、素晴らしい一年になりますように。



## ◇卒業した奨学生からのお礼のお手紙

2020年に奨学生に選ばれたマーシー・ガトウィリ・キビティさんからの2024年12月18日付の手紙の訳です(学生からの英文レターはホームページに掲載しています)。

この度は、ンティンビリ小学校を経て、2020年から2023年にかけてカアガ女子高等学校に通学した際に、ギトンゴ製茶工場を通じて日本ケニア交友会と日本のみなさまに多大なる経済的ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

学費のサポートのおかげで、私は中断することなく教育を続けることができました。2023年にKCSEを66点でB(平常点)の成績で修了できたことを大変嬉しく思います。現在、ケニヤッタ大学で統計学とプログラミングの理学士号取得を目指しています。

高校時代を通してドイツ語への情熱を育み、ゲーテ・インスティテュートのYouTubeチャンネルで紹介されている様々なプロジェクトに参加するようになりました。また、ドイツ語の成績がトップクラスだったことを光栄に思い、2022年にはドイツで2ヶ月間のPASCH交換プログラムに参加する機会を得ました。現在、ゲーテ・インスティテュートでB2レベルのコースを受講しています。学業を続けながら、さらなるドイツの奨学金を獲得することが目標です。

これらの成果はみなさまのご支援なしには実現できませんでした。この機会を与えていただいたことに深く感謝いたします。私のような学生を支援したいというみなさまの献身的な姿勢、そして教育の変革力に対する信念は、本当に刺激的です。これからも学びの道を歩み続ける中で、未来の世代を指導するだけでなく、地域社会の成長と発展に貢献できるあらゆる方法で貢献することで、地域社会に貢献していきたいと考えています。

改めて、みなさまの貴重なご支援に心より感謝申し上げます。学業の進歩とその後の人生において、誇りに思えるよう尽力してまいります。

心をこめて マーシー・ガトウィリ・キビティより

~~~~~

続いて、アン・ンカザさんからの2024年12月の手紙です。彼女は2018年に高校を卒業。以前、セミナーにも顔を出してくれ、後輩たちに話をしてくれた子です。

お元気でお過ごしのことと思います。

高校を卒業してから6年が経ちました。これまでの道のりを振り返ると、みなさまからいただいた寛大なご支援に、感謝の気持ちでいっぱいです。中等教育へのご支援は、言葉では言い表せないほど私の人生を変えた贈り物でした。

みなさまのご親切とご支援のおかげで、経済的な制約を常に心配することなく、学業を続けることができました。みなさまの私への信頼は、私に努力し、成功を目指す力とモチベーションを与えてくれました。

私は成長し、未来を築き続ける中で、みなさまが教えてくださった教訓を心に刻んでいます。私の人生、そして多くの人々の人生に与えてくださった計り知れない影響に、いつまでも祝福されますように。

揺るぎないご支援に、改めて感謝申し上げます。私の教育の道のりにおいて、みなさまが果たしてくださった役割に、心から感謝いたします。

心からの感謝を込めて アン・ンカザ

続いては、2021年の奨学生、アルヴィン・ムアンギくんからの2025年1月26日付の手紙の訳です。

みなさまの寛大なご支援に対し、心からの感謝を申し上げます。みなさまのご支援は私の人生に大きな変化をもたらしてくれました。私の潜在性を信じてくださり、深く感謝しています。

おかげさまで、私は経済的ストレスの負担なく、勉強に集中することができています。みなさまのお力添えは、私が学業目標を追求し、環境学研究所の学士号取得に向けて努力することを可能にしてくれました。困っている学生を励まし、支援して下さる方たちがいることを知って、本当に励まされています。

私はこの機会を最大限に活用し、夢を達成することを約束します。私もいつか、みなさまが私を助けてくれたように、他の人々を助けることで恩返しをしたいと思っています。改めて、貴重なご支援に感謝します。私の人生にいい影響を与えてくださいました。永遠に感謝し続けます。

心からの感謝を込めて アルヴィン・ムアンギ

~~~~~

そして、ケルビン・ムトウィリ君からの2025年1月19日付けの手紙の訳です。

みなさまからいただいた寛大な奨学金に感謝申し上げます。ご支援のおかげで、過去4年間、アボトゥグチ高校で学ぶことができ、全国試験でC Plain(平均)を獲得することができました。

この奨学金のおかげで、家族の経済的負担は大幅に軽減され、父は他の兄弟の学費を支払うことができ、私は学費の心配をすることなく学業に集中することができました。また、将来、地域社会に貢献したいという意欲も湧いてきました。夢を実現し、社会に貢献することで、みなさまに誇りに思っただけのことを願っています。高校を卒業できたことは、まさに夢の実現です。

みなさまの貴重なご支援に改めて感謝申し上げます。

心をこめて ケルビン・ムトウィリ

## ◇紅茶生産者からの手紙

毎年、紅茶生産者・製茶工場から、手紙をもらっています。当会のホームページにて、オリジナルの英文をご覧いただけます。

(簡単な訳) 2025年2月20日  
農薬不使用の『ケニア山の紅茶』について

### 概要

位置: ギドンゴ製茶工場は、KTDA(ケニア紅茶開発社)のIV地域に属する、ケニア山の北東斜面のふもと、標高1950m、赤道直下の製茶工場です。首都ナイロビからは約240km、メルエーの町からは約9km離れています。

紅茶生産者と茶畑: 製茶工場周辺の茶葉収穫地域には、5,734農家が登録しており、茶畑の総面積は2,502.6エーカー。一農家が所有する茶畑の平均的なサイズは、0.43エーカー(KTDAの平均は0.5エーカー)です。継続的な改善により、より高い生産性が期待できる土地です。

生産性: 2023年から2024年の決算期の1年間(ケニアは6月が決算)、4,423,928kgの紅茶を製茶しました。1ヘクタール当たりの茶畑から3,975kgの紅茶を製茶した計算になります。ケニアの国全体の平均2,660kgより多く、国内の小規模紅茶農家の平均2,287kgより上回っています(※)。生産性を上げるため、生産者農家が直面する社会的・経済的問題に、常に取り組みがなされています。私たちが抱えている主な問題は、高い燃料費、高い人件費、茶畑に投入する費用により、製茶コストが高くなっているということです。

2023年~2024年の紅茶の売上:  
オークション 98%、プライベート 1%、製茶工場門 1%

製茶工場の製茶容量: 茶葉5,500,000kgを製茶できる容量で、1975年に操業を開始しました。1986年~1987年に製茶工場の拡張がなされ、追加で4,500,000kgの茶葉を製茶できる工場容量になり、1996年~1997年は2回目の拡張により、更に5,000,000kgの茶葉を製茶できるようになりました。現在は18,000,000kgの茶葉を製茶できる容

量に至りました。現在3つの製茶ラインがあり、オーソドックス・ティー※の製茶ライン計画が進行中です。

### 生産品質管理

品質を高めるため、また環境を守るため、私たちは品質管理システム、食品安全管理システム、SAN(農薬不使用を含む、持続可能な農業ネットワーク)をつくり、実行しています。

ISO 9001:2015 (2009年以來 認証)  
ISO 22000:2018 (2011年1月認証)  
レインフォレスト・アライアンス(SAN) (2011年4月認証)

私たちが日本のお客さまへ直接輸出するようになったのは、1990年前半です。日本ケニア交友会(丸川正人氏)と生産者農家/製茶工場とのすばらしい関係は、もう30年以上も続いております。

私たちが作った紅茶は、安全で農薬を使っていないということ、自信をもって保証いたします。また、KBS(ケニア基準局)でも検査をし、分析結果はいつも問題がないということを保証いたします。

最後になりましたが、私たちの紅茶を飲んでくださっているみなさまに、大きな感謝の気持ちを届けたいと思います。いつもみなさまが私たちの紅茶畑に足を運んで、生産者やスタッフたちと交流をもたれることを望んでおります。

サイモン・カラニ・イキアラ(署名) ギドンゴ製茶工場 会長  
ジョージ・キマジ(署名) ギドンゴ製茶工場 工場長

※これまで、この製茶工場には、CTC(茶葉を細かくカットする製茶方法)の機械で製茶していましたが、新たにオーソドックスの茶葉を作る機械を導入する計画が進行中。2025年8月に産地訪問の際に、もう稼働しているかなと思いましたが、まだでした。製茶工場内に、オーソドックスを作る機械が、梱包された状態で待機していました。個人的には、ケニアの茶葉はCTCで作るのがベストと思っています。が、オーソドックスを作るようになったら、サンプルをもらってみようと思っています。

## ◇8月に奨学生を集めてのセミナーを開催

2025年8月、当会の奨学金プログラムで、2024年に選ばれた奨学生たちを集めて、ギドンゴ製茶工場にてセミナーを開催しました。18名が参加。学生たちは慣れない場のためか、下を向いてもモゾモゾ…。自己紹介のときも声が小さく、緊張している様子でした。

今回は、ナイロビ事務所・マネージャーのムンガイ氏と、丸川さんの古い友人でケニア国内の製茶工場で活躍し退職されたムリエラ氏(メルエー出身)、そして製茶工場長のキマジ氏、日本からのお客さま1名と私が出席しました。

大人たちから学生たちに向けては、いつものように勉学に集中する大切さを説きました。学生たちと同じメルエー族のムリエラ氏は「みんな年頃だから、異性やSNSが気になるかもしれない。だけど、いま自分たちが何をしなければいけないか、よく考えて学校生活を送るように」と力強く話をしました。ムンガイ氏は成績の結果と、学費の詳細を連絡するように、学生たちに伝え、製茶工場長のキマジは、KTDA(ケニア紅茶開発社)主催の奨学生向けセミナーの説明をしました。8月は学校が休みなので、同じように、貧しくとも優秀な全国の奨学生たちがナイロビで交流し、学び合うセミナーが開かれるとのこと。その会に私たちの支援する奨学生も招待され、貴重なチャンスに恵まれていました。どんなセミナーだったのか、今度会ったら、聞いてみたいと思っています。



◇編集室より◇ 今回のセミナーに参加した学生たちの、ひとことメッセージ(日本語訳)は別紙をご参照ください。実際の手書きメッセージは、ホームページにスキャンを載せています。それぞれの手書きが独特で、解読に時間を要しますが、ぜひご覧ください(ひさこ)。

日本ケニア交友会 東京事務所  
TEL 03-3702-0234 FAX 03-6800-2958